



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案 第5巻 第4号
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の社会的統一性の問題
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77401
Type	manuscript
File Information	N011_01S28.pdf



NOTE BOOK

Made of paper
Specially prepared in Nippon

都市社會學

二十八年度

特殊講義字

第五卷

第四章

都市の社會的統一性の問題



¥30.00

NISSHO

文華ノート A 3

第四章 都市の統合と統一性の問題

1. 都市の空間的形態

2. 城壁

3. 五、五、五、五、五の統一性

四、都市の外輪

五、行政的地

六、戦意による特徴

七、地価に足るもの

八、密集生活体としての都市

九、住居と職場

十、都市の概念と其具象化

(生活場としての都市)

第十四章

都市の
社会学

統一
中の
問題

本章に於ける問題

都市空間の形成

実証的研究の類大としてこれ

(2)

都市の発展と交通の便

推通
名
山
新
一
史
的
文
化
的
不
同

[illegible]

地上の境を突破し、
地上の都府は

都市と村落を区別的に区別した研究
市の区域

土壌の地味

社会の地

2 4 城 降 上

3 5 系 形 態 の 空 間 的 独 立
6 人 に 密 着

7 郊 外 部

8 都 市 の 外 輪

通 勤 通 車 道 沿 線 の 指 定 区
屋 屋 供 給 区 圏 普 通 給 付 の 地 区

8 9 郡 居 民 生 活 作 集 合 生 活 作
共 同 生 活 作 と し て 都 市 の 存

5 10 行 政 的 地 区 中 心 的 地 区

11 集 団 的 意 義
相 互 制 限 関 連 都 市 民 の 我 々 共
同 的 意 義 対 比

(9) 12 集 団 的 機 能 的 集 中 的 地 域

10 ~~10~~ 9 7 6
16 15 14 (13)

地連集團の連続的統一

職場より。時中
北中付時に高常停勢

地價に上る都市区域

住居と職場

都市の概念と其系統

郊外と母体都市の位置関係
郊外の存在は他の位置地への自然現象

奥井氏
P.386

第一節

都市の空間的形態の問題

都市の空間的形態と

① 都市は本来自然的な実体としてのものがある。

都市は都市に於ける自然的な実体の一部である。

を抽出して見ることはあるが、自然的な実体は

自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

都市は自然として存在し、他の都市と異なる

過して居るのであるが、料金の世帯には同一
手段を適用し、大連市を除外する。是れ
的行政を遂行するの動きを~~相~~断し、是れ
的体系の中に法則を定めしむるを心の動き
に托け、法則と辭する事、不合理的である。
都市を、實際的に規定する場合、都市
の範囲が地圖の上には、さう境界線で明示
されず、^{像的な}は、其の不定は境界線によつて
如何に多く、便宜をうけてゐるのか。又此境
界線が、規定される所を同一には都市の實際的
不定は^{都市に不鮮明な}強と^{都市に不鮮明な}弱の如く、^知にあらう。
都市は果して此等の統一性をもつて居るや

（）は、各自治体の代表者の能く、
その自治体の利益を代表するもの。

のてあらうか。そしてその統一は土地の上に影

しねる様な性格のよであらうか。本来此の

を宜としてかくのめを統一、
統一、
統一、

都市は各自治体に其の区域を決定し、
（）は、各自治体の代表者の能く、
その自治体の利益を代表するもの。

のては、各自治体の代表者の能く、
その自治体の利益を代表するもの。

能く、
その自治体の利益を代表するもの。

今々我々（）に於ける何れ市又は何れ町と云ふ

場合のその行政的区域は、
その自治体の利益を代表するもの。

然し此区域が都市の区域を有するものである

（）は、
その自治体の利益を代表するもの。

し附近の町村を合併して市の区域を拡張

するものか、
その自治体の利益を代表するもの。

村は勿論山村や山村を包摂して居る

しかくはない。これ等の山村や山村は行政

上市の区域に編入されたとして、それは

そのうち都市になったりしてある。他共に

任になつてある。

とある。

行政上の市や町は必ずしも都市ではない

私達の所管する市町村は、勿論町を市

外都市である人々である。

人の稠密さの多い町場とか商業的職

業人の多い町とかが都市といふ語は

するものに違つた。これは、たしかに

我々の所管する都市にはそんな町場は

場合が多い

して片と称である。細く細くかんえん又、いは
ない。

半と称々々、経験上懐いて、都市の概念は

日常の用語に用ゐる事、常識的な都市、

諸の収容である。私は此常識的な都市

と云ふ語を此等以上の用語として用ひたい。

場合には新しく科学的用語としての都市の

概念を規定する必要がある。今、常識用語

としての都市の意を、又整理して、

都市とは、決してそれとは小く必要はな

いである。

凡そ此等以上の用語には常識語から由来

しとくふふい。それ等の如しに同じ同様のもの
が、あるに過ぎない。日常語の「意味する」とこ
ろを、文法に分別し、教へておいても、それだけでは、科
的用語としては不十分である。日常語の意味
に、一應注意する。事は、望ましいものである。科
的用語は、おろしく、規定し、直すべきものがある。
都て、事として、語として、日常語として、その意を、
そこは少し、おろしく、考へて、その明瞭な、
は、なつ。知し、不、明瞭な、比、日常語の、意、ある、
ところを、文法に、つぎ、考へ、家として、
奥の奥に、復、報、ある、確、定、な、概念、か、い、
て、
△

④ 奥井氏に行政上の都市に對して
 實作としての都市を認識して
 社會を志するの運動を認めよう。

⑤ 東京の定本、地理を志する定本
 地理を志する定本の内には都市の地理を
 社會の地理を志する定本に決意したものは
 ない。

⑥ 私等は日常語としての都市の概念に促はれ
 るのはないけれども、これが都市の統一性を行
 政上の市の外に都市と並ぶものがあることを
 認めよう。都市と農村や漁村との同
 じ區別があることを認めよう。故に都市の同
 都市に統一性を認めよう。都市の統一性
 である。

⑦ 東京や地理を志する都市の定本は都市
 の統一性を志する定本に取替へよう。

⑧ 明確な日常語は与えられ、又のりとしてそれ以上の
 何ものもなくそれをそれとして適用する。

⑨ 東京の生活である。都市は都市として
 全く形として概念を志する定本に代へよう。

⑩ 都市の区域にあっては山村や漁村の部
 分は都市ではない。都市の区域とは別に都市
 の区域がある。行政上の市や町とは別

⑪ 都市は都市である。都市の統一性としての
 都市の統一性である。都市の統一性としての

都市は都市である。都市の統一性としての
 都市の統一性である。都市の統一性としての

である。密居の高投資、人に密居の

拘束せし地域、非密居の人に高投資

それ等のものは昭々たる都市の階級に現れ

たものである。都市の投資の上の極端

に密居の投資は内容に食せぬであらう。

従って、都市の中心に、幾人かの密居を

都市をいしとし、それと都市の密居

との関係は、都市の一面の密居を

足す、その密居は都市の密居に

トの一例を考へて、都市を密居と同

等以上の生活共同体として、都市の

密居の密居性、密居性を密居性

空手

都市は果敢社会の一種で、おれより区別
されし

果敢社会は果敢の基礎の上に形成
されし生活協同体である

生活協同体とは或る人に協力力を
し、日常生活に於ける欲求を満足せしめ
その人に協同体としての作用を
つたすものである

都市の社会は統一と多角化について
考へた。統一の場合について考察して見や
う。

勝った者の生活の圖

（本）は都市地獄を天賦

如何に金せり地理の都市が城壁を巧
二片と一とあるを知らずある

成立

城壁は都市の要件である。先考へ二片ないはか
りか、和名の都市の概念は欧州の都市に
古く、東洋の都市にも必要である。互に期待し
て、大なり。和名はしばしば日本の近代都市

直接に誘致

文について行った実証的調査研究にえつて
考察して、そのよきあり。
ここに城壁をとり出したのは考察にわけよとの
暗平をそこに求めよう。

都市の経済的統一

2 城壁

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

日本国史は例外である。文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

文化が栄えた地である。

人民と

①とてた名一絶な王系をも得の権威を
 定むるに寄与せしめ威壓せしめ、に足る
 格な秩序がその文化の中に在して居
 る。あふ。

建設

プリエ工場の設置に足る小の教育の制を、街の
 の施設を足る小の又ヒガニ万の云ふ共同生活
 の施設を足る小の又ヒガニ万の云ふ共同生活
 戦國期的防衛的組織であった。この文化の在る意
 義は、その文化の中に在る。その文化の中に在る。

組織と

強に對する有して居て、その階層は非
 常的階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

金庫

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

その階層化をなす。その階層化をなす。その階層化をなす。

△ 人か相集するに居て来たのは少くとも共同防衛のみ
 にば是れ中堅であつたのから知れぬ。何れか一方の他は
 さかのぼる程さうであつたか。人同の或るや自然の災
 害に對しては、野蠻の事象に對しては人は共同防衛を必要
 とし出でゐる。人か相集するに居て来たのは偶然では
 ない。集まるさうに相集つたのである。人は外部の
 前にも協力を必要とする。協力を必要とする協力は
 他にも必要である。協力は必要である。協力は必要である。
 一統の統一でない場合もある。それは特殊な歴史的
 環境にまつて生じたもの。人は悉く是れを必要とする。人は
 他人の生活を身へたか。それはなからうか。人は必
 何れかの必要に居る。何れの必要も、多量の必要
 統一を成す。是れは必要の輪廓である。その内
 も、さうである。必要は必要の輪廓である。その内
 是れである。必要の統一の外部を示して居る。その内
 是れである。必要の統一の外部を示して居る。その内

城壁は都市の防衛を統制して金と力を
 持つて居る。統制を最に

けれども城壁の存在を思ふた。それは都市は
 共同防衛の必要を感ずる。一団の人は共同防

衛の必要を感ずる。社会形態であつてか
 都市

其本来の源の意義は、はたして、
 有力な勝つた人々の一群の生活の爲に

是れが都市である。有力な人々は農耕に
 力をな

村落をつくる。是れである。都市は村落
 共同防衛の必要を感ずる。生活の必要を感ずる。

人同の必要の集まりである。この様な意義は
 本の中の都市には、共同防衛の必要を感ずる。

の必要の統一の必要を感ずる。

都市の所を建枕、宗屋形然にす
よ方、也、都市、回、是、二九、年、六、月、号、

一つの国家の人は共同の利害、共同の利益を受け、場合によっては互に助け合ふ。故に、代税をとりあつておちよとほすは、人はさういふ代税強く事務内に团结して外敵をおちり、内外の通商の一端が鋭く執りしむる。故に余程特殊の下里は、情なき限り一果は一元なるとして結ぶべき事だ。人は何れかの果落の前原に、果落をはねた人の先住者へふかた。人はいかに果落を形成し、そこに統一する事を形成するの必要があり、なくてはならぬ。

3. 形态的獨立

空間的に独立した形質をもつて累落の

外形を以て之を以てあるに
たいてい十二倍立した
で、

一を希望するの常識的な結果のなり
 元と二万から去るよ。

東。王宝一般に一の独逸工夏格に依つ

政治的統一
大正二に存すの、一
部始終あり。林

その
元々統一
が原則的な
元々統一
て
くの
規模
に
度

い
て
或
は
あ
は
村
落
に
あ
る
もの
は
都
市

て、あゝ。常談語としての都市の概念のまわ

朴
な
内
容
に
は
た
の
如
き
事
故
の
様
子
の
形
勢
が

今更
来
へ
居
る
。此
概
念
に
配
り
て
改
定
都
市
法

其形能
互換の形能による
互換の形能による
図示す

又都市の形態は分れとして

- 一、見立形
- 二、集居形
- 三、七丁形
- 四、街村式
- 五、不規則形

村の広場の形
 放射状の形
 放射状の形

※都市の範域決定の手段として空地
 範域は、連続的、実態的、自然の形である
 所以である。人は空地の範域による方
 法も亦多し、例として、
 (例) 例法や交通法

都市の範域決定の手段として空地

の形態

けられ、主要な形として、
 し得るものとして、
 あらうか。近代人の生活は、
 な、一戸一戸の生活は、
 もの、近代化は、
 である。

①

の形態は、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

放射状の形、
 放射状の形

都市の可成り然る種別

（おぬ R258）

- 一、星雲形
- 一、集団形
- 二、ヒトテ形
- 三、不規則形

ヒトテ形は鬼形都市的都市
故に南米、サウスアフリカ

へとも見られる。村舎が散居的と密居的に

よって、こんな配位の相違が認められる。

根拠的な

と云ふ大きな向きの相違がある。

また手を付けよう。

（都市式不規則形なんぞ）

都市の可成り然る種別も地理学では星雲形、集団形、ヒトテ形、都市の可成り然る種別（田）をたし、たか

人手の形をたし、たか。その相違を都市

の可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

その可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

今、この可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

可成り然る種別といふ相違をたし、たか。

（この可成り然る種別といふ相違をたし、たか。）

⑤ 集落と交通、地理をふり
て、家、水、位置、家の形、たゞ、車、相、と
居、家、居、の、空間、的、性、質、の、形、態、
を、急、す、す、と、よ、の、な、り、と、け、れ、と、
と、水、は、同、じ、と、あ、る、

⑥ 凡そ

の、か、に

空間、的、性、質、

可、れ、は、今、日、は、住、居、の、集、合、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、
と、又、は、解、さ、れ、な、い、。水、住、居、家、居、と、な、り、と、な、る、

△
 連続的な形態を形成する事は
 工場が住居と区別が不明な大規模な
 面全体の設計は必要である。

新しい都市計画

- 一 住宅
- 一 住宅兼職場
- 一 職場

連続する住宅相互の区画の同一性

△
 この引のようであるか、
 住宅の外に職場
 が分離する事は、
 近代都市では、

集積の形態の独立に、外形を素直に
 なく、複雑な過剰な形を

都市はその景観大によつては判断したくない

都市の発展を考へるべきである。



（大さな）

4 都市の外輪部

都市の外輪部、特に近代的大都市の外

輪部は其自作一つの大なる問題である。

此外輪部の或る部々には都市の発展生活

の住居が群がり、又或る部々には橋への工場

施設が見えぬ。水道や瓦斯の便所^{利用}について

都市の人々と同様の便所^{利用}が得られなくては

電報や電話や貨物の配達^{（に）}も都市へと

同様の便所^{利用}を得てゐる。市内の大なる百貨店

の多量配達区域に於て是れ、法制的に

交通物の設置^{（を）}に關する制限が都市になされて

ある。然しこの辺りからは、原形の外形も

断続的となり、園芸、果樹の栽培は次第の
著多くなり、百姓の構へや耕作も有し、
一部分をやり歌へて是れは^純農村に之より果敢
も有し、又一部分を以ては都市の一流の交輔
を思はせような高知を同たせり。

自働車が盛んに用いられ、橋になつては、この
四世から都市の^{繁華}街に通行せし甚くを容
易である。是の如くこの地から都へつる交通の
利便に道都通ずる。是の如くは、^{分譲}、^娯
楽、^{親善}、^{交際}の爲に交通する事、甚く多し。
この地の人の生活は、都市の中心部の生活と殆
ど同一体となし、片は橋の如く、^{分譲}、^娯
楽、^{親善}、^{交際}の爲に交通する事、甚く多し。

大阪の河津に重宝の財宝的巨額を
同じくして居る者（都市同士の競争）

である。然しこの土地は本来都市より放
射線の外に外部に於ては鉄道や電車やバス
のうちの一つの駅を中心に築成した郊外市街地
の一種の同田園である。それ等の交通路の駅の中
には市街地が集中して居たが、鉄道の発展に
ともなひて、その駅を中心とする市街地
から遠く離れたところへ移る。鉄道の周囲には
勤め人の住宅が集中する。鉄道の漸次大きくなり
その周囲の住宅が集中して行くにつれて、この小区域内に
日常の生活には不十分でない一組の機能が出来上
り始めた。又それを中心とする大都市が漸次増
大して行くと共に、その区域も拡大する。既に

は外形的に中心の大都市と接連して来り。
形成形態としては大都市と全く合併して
しまつて片も。けれどもその区域内には日常生活
の用を定大する組織の単位の様相があるが
何れもその区域内で独立した都市を形成し
て片も極な自立自給的なところも残つて片
も。カインが云ふ Urban Community
と云ふのはかくの如き地区内の社会的統一
を意味して片もよつて片も。

都市の範囲内には旧市外の郊外市街地の
開発した様な区域を含んで居る。而かも
現在の郊外地には年毎に増えし都市の範囲

現在の都心の区域で、もう何十年何百年の
前には二つの盛んな頃の田舎道を走った
ところであらう。

に、は、ら、ん、と、い、う、片、の、様、子、と、い、う、し、数、多、く、有、し、
て、~~都~~都市の外輪部をより成長して行く
都市の姿がよく看取された。都市は其外
形に拘りもし断へず成長し発展して、あるにつ
ても、其外廓部は常に暫定的である。
此の外廓部は毎に月毎に變化して行くとい
ふことはある。然し然しはかくの如く變化
する都市外廓の境を線に都市の正
統一の外形を求めようとするのは、
都市は固定して居ない。絶えず流動發展
して行くのである。而して流部の最も中心に在る
外廓と云ふは都心である。

農村の存在は各地區との交通の便、市街下の
 諸般を都市自身の活動と関連するに於て
 なすにせしめざる可からず一を追求
 する

「文化及び行政機關の分布は都市にと
 本質的下より、適当な位置によつて地域
 の境を定め、これが重要とし、木内
 不内氏は金、銀、銅、同、石、土、木、
 官、民、が群をなすことによつて都市の
 形と位置とが集中、結合、及び組織は
 常に主眼とせしめられ、その結果として

行政地理学

行政村に對して自然村を、或る一定の行政
 都市に對して自然都市を、或る一定の行政

である。行政村をさうして、或る一定の行政都市は
 片住者の行政的統合に外ならぬ。自然村

は同一社会意識の度による相互拘束の範
 域をなすものと解せられ、同様の事が自然

都市に於いて云へるであらうか。都市に於いて

社会意識の度、形成せられ、或る一定の

又社会意識による相互拘束の範域と見らる

より、都市に在るものとあらうか。

西洋には都市の近代化の程度、或る一定の

前近代の田舎村においては伝統的な文化
が形成され、^{伝統的な}意識や態度の共同の世界
がそこにあり、そしてその範囲内での相互
拘束の過程も存し、より自然村に
近づく同様の事。然し近代化してより大都
市ではその形を事実的に脱し、基ついた係
験、共同の世界もなくなり、都市伝説の存在
意識もなくなり、相互拘束もなくなり、
吾人は今から、或る近代化してより都市をも
規範の内に入れ、今までの如く、都市
一般には、社会意識、相互拘束作用は必ずしも
存するとは一般には入らない。或る程度、^{程度}かくの如き作用

用の有る。範域を異色化する。又出来ると

それによつて都市の範域を其に認める方法

として一般に採用するは出来ぬ。

以上の所を考へて来れば自然村と同様の事

は自然都市と云ふ語を用ゐるは不合

理と云へなければならぬ。

然し本来自然村を考へるゝと云ふ理は

住民の結合の場合の如何に拘らず、行政的

便宜上一定地域を劃して行政村が出来

る場合もある。そんなところには自然

な結合の結合は存在しないが、これに對して

自然的な結合の場合の既ん有る村落は

別に存して居る。かくの如き村落は行政村と
識別しなければならぬので、特に自然村と
行政村を用いて自然的な社会的統一による
村落を意味したのである。村落と云ふ語は村と
町と語と同様の用法で行政村と混同し易い
ので特に自然村と云ふ語を用いられた。

而の如き言ひは都市に於いては
行政都市の外に何處かの意味で地域的な
統一の上に存する都市が存在するものと
自然都市と云つていふ訳である。此なる
識文にこれらは何れもはなつてある。

行政都市の
北海道の山形市は山村と云ふ

これより小樽市は漢林を合する所也。
然し此は漢林より小樽市に至るまでの山越や
漢林を降つた後は本島の都市といへ
の島上法や小樽の都市を有する所也。
日本の行政は都市は多かれ少なかれ
本島の都市の世帯と種族の周に地
理上の二つの部分より成り立つて居る。その
本島の都市とよめる部分は何れかの
島嶼に社会的統一を有する所也。
吾人が既に都市の内部の社会構造を論じ
たのも外部の構造を論じたのも勿論其の
本島の都市の部分と意味して居る所也。

即ち、ここに社会構造の統一が、小の以上
この社会的統一が、存するところには当然であ
る。同じく、かく、社会構造の統一が、大
衆の土地の上に表れて、小の、大の、である

吾人の都市社会構造論においては、都市を
構成する、基盤的集團は世帯である。即
ち世帯の^{地域的近接の}上にある、土地集團と

世帯を多視す。職域集團との交代過程
の、都市の近代化は、小の、世帯も
職場も土地も固定して、小の、大の、大の、
それを地上に投影して、考へる、は、多視では

ない。前近代の都市においては職場の
住居より分離するのではなく、都市には単純な
住居のみならず、また都市の範囲も
町界の地上に表すのみであつた。然し
近代化と共に都市に多大に職場の住居の
外に大規模の工場が現れ、更に
地区集団も存在しなくなり、故に都市の
地域性は甚しく混同して来た。近代化の
初期には住居と職場を併せて決定したか
後には職場と住居を決定するに至つた。
都市は住居よりなるものか、職場
によるものか。これは大きな問題であ

たふし功の回びにすむ。

「工業化の進展は工場用地の需要を増大し、都市部の工業用地の不足を招き、郊外への工業用地の転移を促進する。この結果、郊外部の工業用地の需要が増大し、郊外部の工業用地の開発が進む。この結果、郊外部の工業用地の開発が進む。」

木
四
氏
P.80

木内氏
P. 74
仁人
仁隆
新嘉坡
義子
仁人

都市の境界線と云へば都市と非都市の境を分けるべく、他都市との境界が村落との境界である。人の生活は村落から都市へ、何かの要が村落と以外に所々からである。

6. 6
轉新半
業の業の
によるよま
好けはし
4生知
やの
力

都市の職業については既に都市の外的

紙を構造の要素に於いては、
紙の強度を紙の

片のそと五人が、
都争の必経の職

書に高貴敬之官軍人軍治安紙封の爲

の強力な団体、官公吏、教育者であらう。

二 礼子一 職業は何れ人互相手としん職

蒙之。物と相争ふ。農、工、商業。

業
箭
業
米
田
共
二
居

凡三人互相手とすは職業は總て都亭に

後集 巻一のあうう。柳市は人の好むところ

ア、イ、ウ、エ、オ

都市是交易的生紫玄群

邦りしやの都市も支那の都市にせられ
 同様に口實であつた。都市には政治的統
 治は他國をなすか。多数の人々を支配
 するところにあるか。無常統制のよる
 政治は他國にならぬ。然うは自由都市
 市は本来的行政都市たるべきをねん
 りてない力

人王相半才ノ宗教家也。医志也。旅館也。
代書人。也。之。食。也。無。業。也。有。也。
料理屋。也。志。也。都。多。也。は。方。あ。つ。て。居。る。

物を
由業
職業の人としてその職業の

第一室の土如に固着した片は、必要な人

都府の外に住する。農業者

は耕
地の
為に
、
溪
谷
に
は
環
境
の
為
に
、
舒

當土は野田のふに土の地より
新れし。

かゝる事はない。工業も強さ皆都市に集まる。

材料の
菲條、野
蕓、運搬
労働力

鐵柱
爲の由
に
都市は
明
便
宜
に
す
都

多
少
歌
水
十
軒
匠
工
坊
木
匠
匠
匠

都市は大なる生産を以て大なる消費を要する

2
B
2

11 3
9
カ
0
2

七年冬十一月
行く
好
あ
0

よ、
同、
す、
もの、
であ、
る。

陳子龍

七 九

工

1. 結節都市
工業資源都市
3. 衛口気都市

大都市の都市
低外
近世都市
工業資源都市

工業資源都市

である。市口や北海道にふくむ計画都

市は云はば国都都市である。中央都市と

いふより又政治都市といふより、さう計画都

市は何れも為政者の都市であるが、近代代

に伴つて是は計画都市は工業を基幹とし

企業家の計画都市である。）

都市は云々して人を相対する職業人

口を合して、よつてあるが、物を相手と

り、職業人にして土地との対等の関係

同位になつて以上皆都市に集まつて居る。）

職業上の便宜からして都市に集まるが、

生活の便宜、安易、や名譽心や教育や

1942

其の愛を乞へ
 思ひあはしむ

都市の人は皆他の人になじり合ふ

しね
な
人
の
格
で
お
と
あ
う
う
あ

都市の人
は
直
格
の
回
格
の
物
を
に
る

おの(第)1巻をその生ねの基礎にも
2

楊子
子
子
子
子
子
子
子
子

農業者人口佔居之比例

との子の縁、又は雲耕他と連は教地と

子の練によつて豊なり都市の境也

政界先生 鈞
政論上一卷 可能

ふたつ、
その
の
に
し
を
答へて
お
う
と
う
な
り

12
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
8

有
 本
 故
 一
 主
 少
 二
 持
 折
 傾
 臣
 有
 苦
 故
 有
 力

本市の外部に於ける交通の便を決定する。が市域

李中允先生遺集

場々、
特高文
館に
入る。

系を存するに依りて其の土地の土人招致するを本意

都市の職工はこれ以外の他の一部の

職業上の意外なことが、
その強さや教訓に

いれをうへよ。
~~看~~田畠 年輩 乞食す

都予を完として片は。職孝によつて都予

の範疇を身にまとい、
3分2秒で完成した。都

の職掌の税を無税と云ふてなく、人は

戦争の治に都市に集まつて居るばかりでなく生活

の安易や既知のためか、現代都市に居住する人々も

た
う
か
い
て
あ
ら
う

ふ
ね
の
ま
は
た
り
な
し
と
な
る
た。

信

⑦

「^{たて}新築は坪百円、^{たて}次に都市的利用の地を求められ^た。新築にたては都市部一坪以上、中野地帯一坪以上、周囲に空地五坪以上が大作の目玉にな^る」

本内 P.69

文化構成物としての^{地価}地価

7. 地価にみる都市の領域

人への経済的評価は最も確實なる実の要素と被け、その地価が、地価は土地の経済的利用価値に依りて評価され、土地の経済的利用価値は都市の中心部にありて最も高く、その周辺に至るに従って低いものと思はれる。都市は人の往来が、強く故に商業活動の最も盛んなところであるから、土地の利用率はそこが最も高い。この点に於いては都市は人の往来の強しきところ商業が盛なところとあり、その都市域が、含まれて居る。これは古代の定期市の時代から人

が、経験して来た事へてある。さては商店街

が、秋葉の都市と解されてみる。都市の成り

は商店街が島の様に点在して居る。地価

の高いところは商店街に應じて居る。

都心といふのは、^{この都市内で}最も盛んな商店街を言ふ

所である。都心より周辺に近づけば

地価は低くなるが商店街があるところは又

高くなる。然し全般には周辺に及ばず地価

は低くなる。又、その外周に及ばず農村地

である。都市の地価がついに農村地の地価

と相接する環状線がある。これは、地価

線の内部は宅地となつて居るとして、

都市より連続して居る。

経済として

都市的地価区域においては

人々の知能、人々の国家観、経済観に
関係するから水と土のよさによつて地価を
相対的に見てみる土地に地価の差を
を伴ふありと見ようとする。

の調査を済ませる。

地価の同じものを見る。これは地価も
所詮は人から作つたものである。人々の同じ
か、地価も同じと見る。これも都市の人々
の相互に在る関係の一面を映し出す。

「政治経済と都市」に引用
都市生活のその都市

8. 都市集生活体としての都市

都市の住民は明らかに密居して居る。都市を

人口稠密度の高いところと云ふも同様の義である。

而して、都市は密居して居る生活共同体を形成して居る。

生活に於いては消費に於いては同じ都市内の他の

人々との社会関係を築いて生活して居る。生活

共同体と云い得る可いであらう。

密居して生活共同体を形成せるところに都市

の性格を見出さんとする考へが今後にならば

当然である。村落も集村では密居が足る

から、ゆゑに都市は甚だしく密居的である。

然るに都市の密居的共同生活にはそこ

△古今東西の都市に一定の特色を收得は
都市が密居の共同生活体であるところ
である。又この政治的統一性であるところ
都市を村落と異なるところは、都市は密居して居る生活共同体を形成して居る。
正しいが、密居して居る生活共同体を形成して居る。
社会であるところと云ふことは、密居して居る生活共同体を形成して居る。
いので、都市は密居して居る生活共同体を形成して居る。
との差違は完全に見出されよう。

人は社会の総汁木内氏 P.94

所有の生活の型は予想するものはある。

所有の生活の型は予想するものはある。
所有の生活の型は予想するものはある。

道徳律は都市の密居生活の中心を自

ら成るものである。それは容易に想像され

てゐる。それらのものは他の條件からなる

密居とある空間の中心から想像され、特

にその中心である。それは人に在るべき

ものである。都市の住民はこれに在るべき

ものである。都市の住民はこれに在るべき

ものである。都市の住民はこれに在るべき

ものである。都市の住民はこれに在るべき

ものである。都市の住民はこれに在るべき

であつて、それは單純に具象化するのとおま
 ないものであつたとはいへない。都心より連続
 して居る一群の集落どう相違に距つた否
 官路が附いてゐる。一軒家の人々の生活が都心
 のオフィスに職功を担う。その娯樂も教養も
 都市の内部に朽ちてゐる。機関に絶える
 同位を保ち暮らさるゝ衣食の用も都市内の
 高層に依存し、都市内に多くの友人知人
 を持ち置かれ、その人々を往来し、総じて生
 活はゆがみに都市に住む人々との同位に
 甲に行はれ、片うを失ふは、かゝるため
 うのは東京の近郊にも少なくなつてゐる。

よか、彼の都市への社会的側面は題より
はあきらかである。然し彼が都市に側面を
見る系に基き得るものは不可能に達し、彼の
都市への側面はむしろ生活の側面であり
心の側面でありかゝるである。

密集と云ふのは都市の特性の一つとは明
くかん認せねばならぬ、この特性による都市の
限界を決定し、たゞ税制を特性とは有
るべきである。

都市は一つの集落であるか、一つの生活共同
体である。市民の都市への側面は民生生活共同
体への側面に外ならぬ。それは全く社会的な

同好である。

これは生活共同体は涼の如きものと云ふ。

生活のありゆきにおいて相協力しり常の生活に
必要とする物質、知識、娯楽、教養をその内共同体
の人間との社会関係を通じて
片々移転する人の一團である。

此生活共同体は場所を定めずは日常生
活に必要とする食料や知識や娯楽や教
養を必要とする生活共同体に属する人々との
交渉によることを片々移転するものである。

日常生活の中心に必要とする人的な交渉するところ
としてその生活共同体の人間を定めて片々移転する
ものである。その所居の集居地や定型的な共同体

か、その生活共同体に居る人々と同じに
結ばれ、片々あつてゐる。預してそれ等の
社会集團や文化団体は本来心のより寄つて
ゐる、それを客観的に表すよりも、
たゞ、それよりも。然し、それよりも、
ある。都市住民の居る集團や文化団体
は、最も多くその世帯が職均から根を
つして片々あつてゐる。